

2016 年度秋学期 授 業 評 価 報 告

科 目 区 分 名	キリスト教・同志社関係	科 目
-----------	-------------	-----

アンケート結果、今後の改善、その他特記事項（授業方法の工夫等）についての総評

全教員全クラスにおいてアンケートが実施され、実施率 100%が達成された。

評点平均値の科目区分間比較では、「授業理解度」(3.84)「意欲」(3.75)「知的好奇心」(3.70)「集中できる雰囲気」(4.11)の4項目で最下位の結果となり、「授業外学習時間」(0.18)もスポーツ・健康科目区分を除けば最下位であった。このような傾向自体は、必修科目や多人数クラスが多いことを考慮すると、ある部分やむをえない。これらの項目のうち「授業理解度」については、他の科目区分で平均が3点台であるのは理系の2つ学科の区分のみであり、文系の科目としては際立って低い結果である。この項目については、今後に向けて改善の余地が考えられるのではないかと。

必修科目でクラス指定となる「聖書」において、「シラバスとの合致」をはじめ、高い共通性が求められる項目で均質的な結果が得られるよう努めることは、今後も引き続き重要な課題となる。

DWCLA10の科目区分選択率で見ると、「創造力」(32.6%)と「思いやる力」(19.7%)で全学平均値を大きく上回っているのは、多人数の講義科目が多いことを考慮すれば特筆すべき成果である。この結果は、本科目区分の科目が良心教育やキリスト教主義といった同志社の建学理念や同志社女子大学の教育理念を体現することに一定の成功を収めていることを表している。加えて、「思考力」(53.3%)においても全学平均値に比べて遜色のない数値となっている。このことは、本科目区分における科目の授業が、キリスト教的な価値観や道徳を伝えようとする情緒的な内容ではなく、聖書やキリスト教世界と客観的に向き合うことを目的とする内容のものとして、適切に実施されていることを表している。

上記の枠内に収まる範囲内でご記入ください。

教育開発支援センター